



1 地区の概況

- ・縦に長い地区で、南側には緑が多く残っています。住宅は地区の北側に集中しており、一戸建てが多く、新築住宅も増えています。10の自治会があります。
- ・3区分の年齢構成は、65歳以上は区平均とほぼ同じですが、その中では75歳以上の人口が多く、15歳未満は少なくなっています。
- ・地区内に特別養護老人ホームと介護老人保健施設、各1箇所の設置があります。また、児童・幼児用公園プールがあります。

2 地区の主な意見

地域拠点（施設）の整備 ～長期的課題～

- ・地区内に高齢者の集いや子育て支援の拠点となる施設がないので、夏季以外は利用されていない宮沢第二公園のプール管理棟が活用できるよう検討を進める必要があります。
- ・給食会やボランティア活動の拠点として、厨房を備えた施設が望まれます。

災害対策

- ・高齢者は多くいるのに、防災訓練への参加者は少ない状況です。また、現在の防災訓練は危機感がなく見直しが必要です。
- ・各町内会で話し合い、高齢者や障害者の災害時の連絡体制や近隣の救援体制を整備する必要があります。
- ・災害対応がマニュアル化されていないため、検討が必要です。

高齢者への支援

- ・ひとり暮らしの高齢者や障害者には、家に閉じこもり、地域との交流が持てない人が多くいます。
- ・高齢者の中では役員ができないなどの理由から自治会などに加入していない人が増えており、状況が把握しにくくなっています。
- ・見守りが必要と思われる高齢者に対し、プライバシーへの配慮から定期訪問などの活動が難しくなっています。

健康づくり

- ・高齢者の健康維持を目的に、身近で無理のない組織的な訓練などを地域ぐるみで継続的に進めることが望まれます。
- ・現在取り組んでいる「まちぐるみ健康づくり教室」を、リーダーを発掘・養成し、さらに発展させる必要があります。



3 地区で考えた地区の取組み

取組み

1 ★ 災害対策
(特に弱者の救援対策)

2 ★ 地域で
健康づくりをすすめる

3 ★ 地域サロンの開催

取組みの内容

- ◆マニュアルの作成
(例)・近所で手助けをする人を決める
・防災カードを作る
- ◆防災訓練の実施
・案内チラシ・回覧による参加呼びかけ
・関係団体の役割分担

- ◆町ぐるみ健康づくり教室の開催
・高齢者世帯への呼びかけ
・指導者の養成と発掘
- ◆和泉川縁でのウォーキング
- ◆身近な場所でのラジオ体操・太極拳などの実践
- ◆転倒骨折予防教室の推進

- ◆参加者拡大の取組み
・案内チラシ・回覧による参加呼びかけ
・高齢者世帯への呼びかけ
- ◆宮沢会館での月に1回の開催

取組みの体制
(実施主体)

- ◆町内会・自治会単位
・防災部
・家庭防災部員
- ◆連合会
・防災部
・家庭防災部

- ◆町ぐるみ健康づくり教室
・保健活動推進員
・体育指導委員
- ◆ウォーキング・体操など
・自主的活動
・近所同士で始める
- ◆転倒骨折予防教室
・地区と地域ケアプラザ
・福祉保健センター

- ◆サロンふらっと宮沢
(ボランティアグループ)
・宮沢地区社協サロン部会(仮称)が応援

実施後の目標

- ◆年間計画の作成・実施
・防災器具類、備蓄品の新規購入・更新

- ◆町ぐるみ健康づくり教室
・開催回数を増やす
・他の自治会にも広める
・公園での健康づくり
・高齢者向け器具の整備
- ◆ウォーキング
・案内板で目標を定める
- ◆ラジオ体操など
・公園での健康づくり

- ◆閉じこもりの予防
- ◆ボランティア活動の活性化
- ◆地区内の他の自治会館等にも広める

長期的課題の取組み

活動拠点となる多目的施設の整備

取組みの内容

宮沢町第二公園のプールの管理棟を年間を通じて使用し、多目的に使用可能な施設に改築する

取組みの体制 (実施主体)

- ◆東山の水辺愛護会
- ◆東山ふれあい樹林愛護会
- ◆宮沢ひまわり会
- ◆子育てお母さんの集い
- ◆地区子連
- ◆子供会

実施後の目標

- ◆和泉川の川べりにビオトープをつくり児童が楽しめるようにする
- ◆子どもたちだけでなく、他所から訪れる人たちのために公衆トイレを施設内に整備する
- ◆ふれあい給食の場として、使用可能な厨房を備えた施設とする